

## 令和5年第1回水道事業運営委員会 議事録

日 時：令和5年3月10日（金）午後1時55分～

場 所：石狩市役所 2階 201会議室

委員出席者：7名

山田会長・小笠原副会長・佐々木委員・渡部委員・笹谷委員・渡邊委員・  
大黒谷委員

事務局出席者：6名

松田部長・小島課長・勝又課長・岡田参事・金井主査・有坂主査・  
谷内田主査

傍 聴 者：0名

議 事：（1）報告

- ① 水道事業の概要について
- ② 令和5年度水道事業会計予算案について
- ③ 令和3年度第三者委託総合評価結果について
- ④ 廃止施設の処分状況について

配 布 資 料：別添のとおり

=====

【13:55開会】

- 事務局から配布資料の説明、会議の成立及び会議の公開の報告。
- 松田部長の挨拶に続き、委員の皆様から自己紹介、小島課長から水道営業課、水道施設課職員の紹介。
- 会長・副会長の選出  
委員から事務局案の提案について了承があり、事務局案（会長に山田委員、副会長に小笠原委員）を提示（異議なし）。
- 会長挨拶
- 会長選出により、以後の議事進行は山田会長が行う。
- 山田会長より、議事録の作成方法について「要点筆記」の提案あり、了承。

■ ①石狩市水道事業の概要について・・・岡田参事から説明

- 佐々木委員 給水原価を他の市並みに近づける工夫は出来ないことなのか。管路の更新率が低い今後の展望はどうなのか、耐震管は一部でも入っているのか。
- 岡田参事 石狩市は土地が平坦で高低差を利用して水を配ることが出来なく、配水ポンプを使って配っている。運転管理では動力費を削減できるよう努力はしているが、他の都市と比べると動力費が多くかかってしまう、ご理解いただきたい。
- 勝又課長 更新率の指標に出ている0.33というのは、令和3年度の数値で、過去10年では0.6%位となる。昨年度が低かったのは管路ではなく施設にお金が必要となったため。全国の平均は約0.75%で、過去の石狩市の0.6%はいいところと認識している。
- 山田会長 耐震管については、石狩市は全体で723kmの管路がある。その内、全体の耐震率は約14%で103km位の耐震管が入っている。
- 小笠原副会長 全体に対して耐震化率がそれほど大きくはないが、入っている状況。更新率は単年度の業務指標で、年度の展開を見ると、今年は特別な例で低かったなどが見えてくるので、そういう情報も提供いただきたい。
- 岡田参事 計画給水人口を教えてください、計画値があって、それに対して現在の値でなければ全体像が把握できない。手持ちの資料でわからなければ、市のホームページで確認する。
- 小笠原副会長 有収率の説明があったが、有効率は何%か。
- 岡田参事 有効率は92.48%で、それに対して無効水量率が7.52%。
- 小笠原副会長 配水量とあるが、給水量と配水量を使い分けているのか。
- 岡田参事 配水量で整理している。
- 小笠原副会長 企業団から水をもらうときは配水量で、石狩市の水道事業としては給水量で整理するのが普通では。
- 岡田参事 調べてみるが、今までは配水量という言葉で整理している。
- 小笠原副会長 施設能力では配水量と使うが、水を供給するときはあまり使わない。あと、不明水量とは何か。
- 岡田参事 漏水量の内、原因がわからないもの。
- 小笠原副会長 もう一点、消防の水はどうしているのか、無料か。
- 勝又課長 お金はもらっている。
- 小笠原副会長 料金表の中に消火用水といった区分があるのか。
- 金井主査 協定があり、その中で、給水原価に使った水量を乗じて請求することを決めている。

- 小笠原副会長 6 ページの上の表で、平均残留塩素濃度とあるが、0.42は高くないか。企業団から水を受けるところで0.1以上あるはず。
- 勝又課長 そこで0.55位。
- 小笠原副会長 更に加えているのか。
- 勝又課長 追塩はしていない。
- 小笠原副会長 高い気がする、機会があれば企業団と話を。
- 有坂主査 企業団から受水するときには、当別浄水場から、末端の小樽市までいくので、管理目標値を上流から消費していく塩素を確保できる形で定めている。新港中央配水場、花川北配水場では0.45～0.55と定めている。石狩区域に関しては、八幡配水場、高岡配水場と北部に中継して送っていくので、その末端で水道法上0.1以上を確保しなければならない。水安全計画の中で、おいしい水の要件として、目標として1以下としている。石狩市の現状値としては0.6以下という管理でやっている。
- 小笠原副会長 企業団は各配水場でいくら以上と決めているようだが、企業団の浄水場で塩素を入れて、あとは制御できないのでは。
- 有坂主査 企業団の送水管から各施設に分岐していくところに分水施設が設けられている。そこには追塩施設が設けられていて、追塩して必要な塩素量を確保することができる。
- 山田会長 浜益地区の有収率が51%と低い数字で、経年的に減少が続いている状況が気になる。実際に家庭に行っている量が半分になっていると考えればいいのか、用語的には配水量なのか給水量なのか明確になればわかりやすい。

■ ②令和5年度水道事業会計予算案について…金井主査から説明

- 小笠原副会長 収益的支出で水道事業費用が0.1%増となっている。この0.1%というのは、給水原価に対しても0.1%位の影響があるということか。
- 金井主査 給水原価を構成するのが、営業費用と営業外費用。特別損失や予備費の全体への影響というのは小さいので、同じくらいの影響があるものと考えている。
- 小笠原副会長 出資金は増えたと、その理由としては企業団の事業が増えたと説明があったが、企業団は5年度にどんなことをやるのか。
- 勝又課長 浄水処理施設の建設と天日乾燥床の建設等を実施する。

■ ③令和3年度第三者委託総合評価結果について…有坂主査から説明

小笠原副会長 4ページの総合評価表の所見の9番目、地域の清掃活動への参加や施設点検とは、具体的に何をしたのか。

有坂主査 浜益の浜公園の清掃、花川南浄水場の点検の際に周囲のゴミを清掃といったことを評価している。あくまでも履行計画の中で提案があったものなる。

佐々木委員 この業務受託者の株式会社ウォーターエージェンシーは令和3年から令和8年まで、令和3年の前はどこがやっていたのか。

有坂主査 平成20年より第三者委託ということで業務をやっている。始まって以来、会社の名称は変わっているが、ウォーターエージェンシーという会社自体は変わっていない。資料5ページの評価結果表の左上に記載しているが、平成23年度から27年度までは株式会社ジャパンウォーター、28年度からはウォーターエージェンシー、令和3年度からはまたウォーターエージェンシー。ジャパンウォーターとウォーターエージェンシーというのは名称が変わったということになり、同じである。

佐々木委員 利潤追求を主な目的としないところで、且つ業務内容をしっかりやってくれているところに業務を委託していると思うが、単なる内容の評価だけでなく、マンネリ化せず創意工夫を怠らず進めていくという監視の目が非常に大切。

山田会長 業務委託の評価の手法が、日水協からのひな型の中でやらざるを得ない。水道施設そのものは全国水準というのはなく、地域によって事情があるので、それぞれの項目で焦点を当てるべきところというのは変わってくる。全体評価だけではなく、業務改善提案の評価の部分は会社としては改善に対する意図が高くなってくるところで、個別の事情に合わせて小さなおところも注視していくことが必要。

■ ④廃止施設の処分状況について…金井主査から説明

小笠原副会長 いしかりJ-VERいというのはどんな仕組みか。

金井主査 J-VERというのは、石狩市が厚田区等で森林整備を行っている。その森林が吸収するCO<sub>2</sub>をJ-VERとして国が認証して販売できるというもの。事業者が自分たちの事業で排出するCO<sub>2</sub>のうち、削減困難なものをこのJ-VERを購入しましてカーボンオフセットを行う。

森林がどのくらいCO<sub>2</sub>を吸収するというところで、どのくらいのJ-VERの価値になるというのが決まると思うが、環境所管でないといこれ以上詳細

な事業内容はわからない。  
小笠原副会長 何かのときに説明を。

■ 山田会長から委員会閉会宣告。

令和5年4月21日議事録確定

石狩市水道事業運営委員会

山 田 俊 郎

午後3時35分閉会